

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム桜ヶ丘 貳番街		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1丁目20番地		
自己評価作成日	平成 28年 6月 30日	評価結果市町村受理日	平成 28年 9月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosoCd=2775502418-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 28年 8月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりにとって、ここが生活の場であることから楽しみや生きがいの感じられる暮らし方ができるよう援助している。日々の生活を手作りしていく上で、ひとりひとりが持っている能力や個性が発揮できる機会をつくり、生活の主体者として存在することを大切にしたり関わりを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元出身の理事長が、自らの土地に親族の入居をイメージして開設されたグループホームです。ホーム周辺はマンションの多い所で、個人住宅は少なく、地域との交流は難しい所ですが、野菜栽培の農地が多く残り、広い公園もあって緑の多い静かな環境になっています。設立後11年経過し、管理者と職員の努力で、事業所としての介護力が格段に向上し、職員の明るさや優しさ、こまやかな気遣いが家族の評価を受けています。利用者は楽しく歌い、美味しい食事をいただき、医療的な心配もなく、安心して会話と笑顔のある生活を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念は『家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、「自由」「尊厳」のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います』としており、理念が利用者への日々のケアに反映されているか、常に問い返しの作業をフロア会議で行っている。	『家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、「自由」「尊厳」のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います』を理念として定め明示しています。管理者は、定例のフロア会議や研修、毎日の業務等を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	個人住宅の極めて少ない環境にあり町会としての機能もほとんどないことで住人との関係づくりが困難な土地です。それでも、近くの公園の利用を通して顔なじみになり、気軽に声をかけていただけるようになってきました。また隣は昔からの畑で、農家の方とはできた野菜をいただくなど、親しくしています。	町会がほとんど機能していないため、そこを通じた地域とのつながりは期待できませんが、隣の畑の農家の方や、近所の公園におられる地域の方々の交流、近隣の商店からの紹介によるボランティア(マッサージ)の受け入れなど、暮らしのなかで培われてきた近隣との交流を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設の見学や入居に関する相談で訪れる方がほとんどですが、とびこみ見学の方や事前情報を持たない方へも、介護サービスに関する情報提供や相談にこられた方の困りごとなどに対応できる範囲でアドバイスを行うなどしている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議での報告に、事故報告や入退院された方の報告も行い、事業実態を伝えるようにしている。必ず家族様の参加をいただき率直な意見や質問を頂き、説明する機会をつくっている。</p>	<p>運営推進会議の参加者は民生委員や市職員のほか、家族は輪番制にしているべく多くの方が会議に関われる工夫をしながら、2ヶ月に1回開催されています。運営状況において、事故報告なども詳細になされており、その他行事報告や、出席者からの意見についても取り上げられています。民生委員からはお祭りや音楽会など、地域のイベントの情報提供を得る機会となっています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>事業運営の上で必要と思われることは行政の担当者へ相談してから決めるようにしている。また、家族様等と何らかのトラブルが発生した場合も事前相談などを行い、円滑な解決を図っている。</p>	<p>市の担当職員とは、報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。管理者は市のグループホーム事業所分科会に積極的に参加し、施設の見学会には職員を参加させています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>住宅環境の面から玄関の電子錠システムの変更は困難であるため、利用者に拘束と感ぜさせない環境づくりに注力している。また、安全対策として靴や掛布団に鈴をつけて動きを把握できるようにすることに対しては、事前に家族様への説明および同意を頂いて実施している。</p>	<p>職員は、年間計画に従い身体拘束廃止について研修を受け、意識を高めて身体拘束のないケアに取り組んでいます。前回の外部評価以降、フロアドアについて日中の特定の時間帯だけでも開錠できないか、職員間で話し合いを続けています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>権利擁護と虐待防止をテーマにした所内研修を繰り返し行っており、職員教育による虐待防止に努めている。また、入浴時や更衣時に身体の状態の観察をしっかりと行うよう指導しており、不審な点があれば原因を究明するようにしている。更に、利用者の表情の変化に気を付け、適切なケアが行われているか多面的にチェックするようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修の機会をつくり、職員の理解を促している。また、家族等の事情を考慮し必要な制度利用への援助を行うときもある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容に関して、十分な時間をかけて説明を行うとともに、家族様等からの質問や疑問に関してはできる限り丁寧に返答し、納得をいただけるように努めている。入居されたあとは、介護保険による介護用品のリース等ができなくなり、利用の必要がある場合自費利用となることなども事前に説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様等が意見や苦情の言いやすい環境と関係をつくるよう留意し、事業所の苦情等の窓口担当を周知している。また、交替で運営推進会議への参加を依頼し、自由に発言していただくようにしている。</p>	<p>意見を出しやすくするため、入居時から丁寧に聞き取りを行っています。入居後については、ユニットごとに連絡窓口の職員を固定することで、情報や意見の行き違い等がないように工夫しており、日々の報告のなかで意見を聴き取るようにしています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定例で、フロア会議を開催し、職員からの意見や要望等を出す機会を作っています。その場で返答できることは返答し、上申し検討する必要があることは、職員の意見を集約してから上申し、返答するようにしている。</p>	<p>職員は、フロアリーダーが合同で主催し管理者も参加する定例のフロア会議や日常の業務を通じて、自らの意見や提案をすることができています。管理者が長年にわたり、経験の少ない職員を粘り強く育成し、チームワーク作りに努力してきた成果が出ています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新の時期ごとおよび問題のみられたときなどに、個別に話し合う機会を持つことにしており、その場でいろいろな業務上の注意をしたり、各自の希望や要望を聞き、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を開催し各職員の参加を義務化している。工作上必要な知識を身に付けてもらうようにしている。また、入職後は、一定の期間現場責任者がついて個別指導を行い基本的な技術等を教育している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市内のグループホームでつくるグループホーム分科会に必ず参加していて、同業者として抱える課題や悩みを話し合い他の施設の取り組み等を参考にさせていただいている。また、毎年交替で施設見学の企画があり、できるだけ参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者へは必ず面接する機会をつくります。直接会うことでお互いに知り合い、入居時に知った人がいるという安心感に繋がります。意思表示の可能な方であれば、本人の意向をしっかりと聞き取りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた段階から、家族様の抱えている問題を聞き取り、必要なアドバイスを行ったり情報提供を行うなどして家族様の不安の軽減を図ったり、信頼づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やキーパーソンを通して、今直面している問題がなんであるかを理解するようにしています。サービスの選択が適切であるか、他の選択枝はないか、いま取り組むべきことは何か、などできる範囲で説明するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の性格や能力等を見極め、本人のできることややりたいことができる場を確保し、共同生活者として認め合える環境と関係づくりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は24時間フルオープンにしております。いつでも気楽に会える環境をつくり家族の絆が細くならないよう配慮しています。家族の存在の持つ意義と役割を伝え、協力して本人を支えられる関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が築いた人間関係を大切に、家族や兄弟はもとより、友人やご近所の方などが気軽に面会に来て、ゆっくり過ごせるよう配慮しています。	職員は、利用者が以前通っていた馴染みの散髪屋に行くのを支援したり、馴染みの友人や近隣の人が面会に来るのを支援し、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めています。また、家族と散歩したり、外食や買い物に出かけたり、自宅での外泊をしたりすることなども支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や能力等を考慮し食事席を決めています。相性が悪かったり、関係作りが上手くできない場合は職員が適切な介入を行い、孤立したり疎外感を感じたりすることのないよう援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され、入院・入所されれば、可能な範囲で入院・入所先を訪問しご様子を伺うようにしている。家族からの相談などがあれば、できるだけの援助は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の意向や思いを表明できる方であれば、直接その意向を把握するようにしている。困難な方であれば、キーパーソンを通して本人の思いに近づけるよう関わっている。	利用者との日々の関わりの中で聞き取った利用者の意向や思いは、ケア記録やアセスメントシートに記録して、職員間の情報の共有化を図っています。職員は利用者の思いの実現のために家族と話し合い、家族と外食や買い物に行ったり、自宅外泊することを実現させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもとより、家族やケアマネ等本人を一番よく知る人を通して多面的に情報を収集し、本人への理解を深めるとともにケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新しい環境へ馴染めているか、戸惑いや不安はないか、等について一日を通して状態を把握し、その人の在り方や職員の関わり方を検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向を聞き、また、職員の情報をもとにして介護計画を作成している。本人の状態の変化を一番よく把握できるのが、日々接する職員や夜勤者であるため、職員からの申し送りや報告により状態の変化がみられたら、そのつど計画の見直しを行うようにしている。</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。計画作成担当者は介護計画の支援結果について、3ヶ月毎にケア記録や日報を精査し、モニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画の見直しにつなげています。ただ、介護計画の個別援助項目に焦点をあてた日々の職員の介護記録やモニタリング結果がない状態になっています。</p>	<p>介護計画の個別の援助項目を職員に徹底するとともに、職員によるモニタリングの実施が望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人ファイルや業務日誌に、日勤者または夜勤者から実際にあったことと気が付いたことなどを記録している。また、朝または夕方の申し送りで日々の様子を伝達している。一過性の変化か継続的な変化かを経過を見ながら判断し、ケアの在り方に反映させている。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>介護用にベッドや手すり、車いす等が必要になれば、本人に合わせた適切な用具が入手できるよう援助している。また、外来受診の必要があっても付き添える家族がない場合、通院の介助を行っている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近に援助者のない方でも、外出や外来受診が行えるよう保険外サービスの提供業者を発掘し活用できるよう援助している。また、寝たきり防止のために、鍼灸マッサージなどの利用を紹介し、ADLの改善に役立てている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解と協力があれば、それまでのかかりつけ医を継続することも可能です。事業所に委託されたときは、事業所のかかりつけ医が担当することになるが、本人、家族の同意を得た上で決定している。また、精神科等へかかっている方は往診等を依頼して、継続して専門医に診てもらえるように配慮している。	家族の同意を得て、利用者全員が協力医療機関の医師の在宅訪問診療を利用し、月2回の往診を受けています。医療連携している看護師が週1回の訪問看護で健康管理を行っています。診療科目によって、入居前からのかかりつけ医に受診する利用者には、必要の都度、通院介助をしています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週ごとの定期的な訪問による健康管理の際に、訪問看護師と適時情報交換を行い、専門的なアドバイスを受けたり医療処置を施したり、場合によっては主治医への上申を行うなど、必要とする医療がうけられる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院したときは、管理者あるいは介護の責任者が付き添い、速やかに医療機関が必要とする情報の提供を行っている。また、定期的に入院先を訪問し病状を確認するとともに、退院後を見据えて、家族および病院関係者と情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化傾向がみられる場合は、家族や主治医との話し合いの場を繰り返し持ち対応策や今後の在り方に関して納得のいく方向をみつけるよう努めている。また、終末期には、本人、家族の意向を確認し医療機関の理解と協力のもとで、できるだけ意向に沿えるよう努めている。</p>	<p>ホームは看取り実施の方針をもち、看取り指針を整備して利用者と家族に説明し同意を得ています。看取りの実績もあります。前回の外部評価以降、職員の看取りマニュアルを作成中です。利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>実際に想定される事態をもとに、事故時や急変時に対する対応の方法を日ごろから話し合い、申し送りして理解を促している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間通して、火災訓練を中心に行っている。地域との協力関係は作りにくい地域性があるため、できるだけ自力で対応できるよう、職員の訓練に力をいれている。	年4回の災害避難訓練を計画し、内1回は消防署の指導のもとで、毎年12月に実施しています。近々自主消防訓練を実施する予定です。災害時の水の備蓄は十分ですが、食料はまだ不足していますので順次計画的に増やす予定です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに対し、まめに声をかけることを重視し、本人の意向や意思を無視した独断的な行為を行わないよう気を付けている。また、排泄介助や更衣の介助の際などに、他者の目に触れないよう細かい気配りをするよう指導している。	職員は年間計画に従い、プライバシー保護について研修を受け、意識の向上に努めています。職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮して、丁寧で優しい雰囲気をもって接しています。利用者はゆったりと、落ち着いた暮らしをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとつひとつに本人の意思や希望、状態等の確認を行い、職員の独断で決めることのないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の心身の状態に配慮し、その日の在り方を本人に決めていただいている。無理に離床させたり入浴させるなど、職員主導でおこなわないよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選べる方は自身で選んだ服装で過ごしていただいている。また、本人の代わりに家族が用意したものを着用していただいている。ヘヤースタイルは本人あるいは家族の意向に沿って事由に決めていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の段階から、野菜の皮むきなどの手伝いを分担しあったりメニューを話題にするなどして食事が受け身にならないよう努めている。食後の片づけが自身の役割に感じられるように習慣づくりを行っている。	三食とも各ユニットで手作りしていません。食事の下ごしらえや、食後の片づけなどは、利用者ができる範囲で行ったり、職員も同じ食事を摂ったりと、ともに食事を楽しんでいます。食材は宅配業者を利用していますが、おやつなどは近隣のお店へ買いに行っています。利用者が食べたいものなどは誕生日会のメニューにしたり、体調が悪いときは体調に合わせた変更をするなど、食欲がわく工夫もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックしていて、不足がみられれば個別に対応し補完できるよう援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。声かけで促すだけでいい方から、全介助の方まで、それぞれに合わせた介助の仕方です。口腔内の清潔を保つように努めている。また、使用する歯ブラシや歯磨き、義歯の管理も個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、その人に応じた介助の方法とひとりひとりに合った排泄用品の使用に配慮している。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りによる排泄支援を行い、大半の利用者はトイレでの排泄ができています。リハビリパンツを利用していた人が、声かけ誘導により布パンツに切り替えることができ、家族に感謝された事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを毎日行っており、排便の有無や量、間隔を把握し、個別に医師の処方に合わせた下剤の投与を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、月曜から土曜までの午前11時から昼前、午後1時半から3時前の時間帯で行っていて、週当たり2～3回入浴されています。個々の希望に応じた時間や曜日の対応は、いまのところ困難です。	利用者は、平均して週2～3回、入浴剤を使って入浴を楽しんでいます。曜日は固定せず、利用者のペースに合わせて支援できるよう1対1で対応しています。そのためか、普段フロアでは聞けないような身の上話を利用者がしてくれることもあり、利用者との関係性を深める貴重な時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を一律とせず、それぞれの習慣を考慮して対応している。また、その時その時の本人の状態に応じて日中に身体を休める時間を作ったり、逆に必要以上に日中寝てしまわないようひとりひとりに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がすべて行っており、途中で切れたりすることがないように主治医とも連携している。また、薬の形状も本人に合わせて飲みやすい物に変えるなどの配慮を主治医や薬局と相談しながら決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの本人の生活歴や趣味情報などを収集し、馴染みやすい環境を整えとともに、本人のできることを生かす場所をつくるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出への援助としては、交替で行く朝の散歩に限定されている。 個々の希望については、家族の理解と協力を要請し、実現するよう働きかけている。	日常的には近隣の公園への散歩を行っています。また、庭に利用者が一人で自由に入出し、菜園の世話などをする機会があります。職員だけで遠方への外出を実行することが現在難しく、家族への協力を仰ぐことで、出かける機会を支援しています。また、自費による外出支援のサービスについても希望者がいれば活用できるようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ち、使うことの大切さは理解できるが、実際に使う場面をつくるまでに至っていない。外へ出て必要なものを買ったり飲食の機会を持って支払いをしたりすることは大事なことである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人専用の携帯電話を所有し、家族との通信に利用されている方がいる。 手紙を出す希望があれば、必要物品等の確保の援助は行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、毎日清掃し清潔な状態を保つよう心掛けている。利用者に合わせて適切な温度管理を行い、また、季節感が伝わる工夫をして快適に過ごしていただけるよう配慮している。	フロアドアを開けると、内部は明るく広いオープンな共有空間となっていて、調理スペースや食卓、憩える場所のソファがあります。ピアノやカラオケ機器などのレクリエーション道具、雑誌や新聞ラックなども見渡せます。また、季節感のある手芸の花が壁やテーブルに飾られ、人形や小道具、置物も置かれています。利用者はそれぞれ好みの場所でゆったりとしていて、利用者に優しく温かみのある空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺のソファや玄関前の長椅子など食事以外の時間は自由に移動し好きな場所で過ごしていただけるようにしている。ゲームなどを楽しめるようそのときそのときに合った位置に移動するようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の趣味の品や思い出のある記念品など、大切にしてきたものを持っていただき、居室が気持ちの落ち着く空間になるように配慮している。また、行事や誕生祝いなどでプレゼントした物品を配置し部屋のアクセントとして活用するなどしている。	居室には、利用者の馴染みのタンスや飾り棚、ソファ、椅子、人形や置物、花飾り、家族や若い頃の写真、外出用の洋服など、思い思いの物を自由に持ち込み、家族の心遣いも感じられます。利用者にとって居心地の良さそうな居室になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場などわかりやすく表示し、自分で行かれる方が迷わず行けるように工夫している。ベッドの使用が危険な方へは、床に畳等を敷いて寝ていただき、自由に動かされてもけが等の危険が少ないよう環境を整えている。また、居室内が死角となることから転倒のリスクのある方の居室は、床面に、弾力のあるクッション材を敷くことで、転倒時のダメージの軽減を図っている。		